

2025年度 事業計画書

学校法人 山梨英和学院

目 次

2025 年度事業計画 理事長巻頭言	1
I 大学	2
II 中学校・高等学校	16
III 認定こども園	24
IV 学校法人（法人本部）	27

2025 年度事業計画 理事長巻頭言

海外においては2つの憂うべき戦禍が続く中でアメリカの政権交代があり、国内では思いがけない能登半島地震と豪雨災害の上に衆議院の総選挙後の不安定な政治状況が生じるなど、21世紀に入って既に四半世紀を迎えた世界情勢は、残念ながら希望よりも不安が勝る状況にあるように思います。その上、人口減少社会が進んでいる今、様々な課題を抱える日本社会は大変厳しい時代を迎えています。

厳しさの中に始まった2025年度、山梨英和学院は、創立136年目を迎えますが、引き続き、創立時から変わることのない、キリスト教信仰に基づく建学理念と、不朽の校訓「敬神・愛人・自修」を掲げて進んで参ります。そのための具体的な事業計画・諸施策をここに纏めました。2年目となる新中長期経営計画「Vision 2033」の各事業計画・諸施策には可能な限り数値目標を定めています。益々激しさを増す少子化の逆風の中で減り続けている学生数、生徒数を、この計画を実行することによって、今の状態を底として増加させていかなければなりません。時間は余り残されていません。

今、私達は、山梨英和学院を建ててくださり支えてくださっている神の知恵と力を求めつつ、教職員一人一人が各自の持ち場立場で与えられた分を果たしていく所存です。そして、全教職員の持てる力を結集して、2025年度の事業計画・諸施策を進めてまいります。

2025年度年度聖句

あなた方に平和があるように。

父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。

ヨハネによる福音書20章21節

理事長 江 口 英 雄

大学

I. はじめに

個別の事業計画について、以下に大学としての大枠の事業計画を記す。

2025 年度予算の策定に当たっては、2024 年度に策定された中長期事業計画（長期ビジョン及びビジョン達成のための事業計画）に基づいて進める。

① 基本方針

1. 目的意識と費用対効果の視点

全ての事業において、

- ① 目的意識を明確にし、限られたリソースの適切な配置を行う。
- ② 無駄なものを徹底的に洗い出し、常に費用対効果の視点を持って執り行う。

2. 諸方策の検討・改革・改善・実行

学長中心のガバナンスにより、意志決定と変革のスピードを上げ、諸方策の検討・改革・改善・実行を着実に行う。

3. 予算編成にあたって

予算編成においては、既得権意識を排除し、ゼロベースから厳しく積算する。

特に定常的な予算については 5%を目安としたマイナスシーリングを行い、中長期事業計画に関する新規予算は別立てとしたい。

II. 主な教育・研究の概要

● 建学の精神：ミッション

キリスト教精神を基盤とした山梨英和大学は、校訓である「敬神・愛人・自修」のもとに、「他者ととともに生きる」、「他者ととともに在る」大学として、次のような資質を持った地域に根ざした「よき隣人」の輩出を目指す。

- ① キリスト教精神に基づき、地域住民を中心としたすべての人の「こころ」に寄り添い、様々な境遇にある隣人のすべてを愛し、助け合うマインドセットを持っている。
- ② 地域の中で自身が果たすべき役割の具体像を持ち、そのために必要な知識やスキルを自ら発見し、生涯にわたって磨き続けることができる。
- ③ 地域に押し寄せるグローバル化に適応し、主体的な参加、責任を持った行動ができるグローバルシチズンシップを持っている。

● 教育研究目的と方針

大学

- ビジョン

山梨英和大学は、真に国際的な大学となることを目指す。それは、様々な国や地域から学生を受け入れることだけではない。本学は、国籍や民族の違いを超えて、常に国際的な視点でものを考えるとともに、自らの立脚点をしっかりと見据えて地域社会と密接に連携しつつ、キリスト教精神に根ざした深い人間理解のもとに、世界の平和と安定のために活躍する人材を輩出することを目指す。

現代は、様々な国や地域で発達した文化が、あるいは融合し、あるいはより独自に発展しつつ、グローバル化している時代である。こうした時代にあって、山梨英和大学人間文化学部においては、人間文化を理解する基礎基本を学ぶべく、言葉の理解と表現方法の習得、情報の伝達手法（コミュニケーション能力）の習得、人間の心の理解などを幅広くかつ深く学び、極めることを目指す。これらを包括する名称として「人間文化学」を掲げ、人間文化学部人間文化学科（一学部一学科）を設置している。

- 「卒業に関する方針」（ディプロマポリシー）

「人間文化学」のカリキュラムにおいて所定の単位を修めることにより、次に示す能力や資質などを備えた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

1. 人間文化学に関わる幅広い教養と体系的な知識を修得し、多面的・論理的な判断に基づいて課題解決に取り組むことができる。
2. 他者を理解しながらさまざまな手段で自らの考えを表現し、円滑なコミュニケーションをはかることができる。
3. 多様な文化や価値観を受け入れ、キリスト教教育によって培った倫理観をもって地域社会の発展に貢献できる。

- 「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラムポリシー）

1. 1・2年次で中心的に学ぶ基礎科目群では、キリスト教の精神を学ぶ科目、自己理解・他者理解のための科目や地域社会を理解するための科目に加え、人間文化を理解するための基盤となる創造性・協調性・コミュニケーション・ICTなどの高度な活用能力（フルーエンシー）を実践的に身につける。
2. 2・3年次では修得したフルーエンシーを基盤とし、人間文化学を形成する下記の3つの専門領域を体系的に学ぶ。サイコロジカル・サービス領域：「こころ」を理解し「ひと」を支える心理の専門家をめざす。グローバル・スタディーズ領域：グローバルな視点から日本と世界を見つめ、真の国際人をめざす。メディア・サイエンス領域：ICTを駆使して新たな価値を創造するクリエイター、イノベーターをめざす。
3. 3・4年次では、「専門ゼミナール」や「卒業プロジェクト」などに代表される、

専門領域を深く追究する科目を学ぶとともに人間文化学を横断的に学ぶための領域融合科目を学ぶ。

さらに、4年間をとおして幅広い教養を身につけたり、自己を磨いたりするための科目として「オープン科目」を設けている。

またキャンパスの内外を学びのフィールドと位置づけ、学外での学修活動をも推進すべくクォーター制とセメスター制を併用する。授業においてはフィールドワークやアクティブラーニングを積極的に取り入れ、カリキュラム全体で学生主体型の教育を行い、さまざまな分野でのフルーエンシーを醸成するようになっている。

- 「入学者の受入に関する方針」(アドミッションポリシー)

山梨英和大学は、「敬神（神を敬い）、愛人（人を愛し）、自修（自らを修める）」を校訓としている。キリスト教精神に基づく建学の精神に由来するこの校訓と今という時代における大学のあり方に対して真摯に向き合い、地域に根ざした大学として教育・研究活動を行っている。本学では次のような学生を積極的に受け入れる。

1. 奉仕の心をもって、地域や国、さらには世界の発展に貢献したいと考えている人
2. 文化や言語のちがいを越えて他者を理解し、ともに学ぼうとする意欲をもつ人
3. 主体的に学ぶ姿勢をもち、地域はもちろんのこと地球規模の課題にも積極的にチャレンジする人
4. 本学の学習に対応できる基礎的な学力を有する人

大学院（人間文化研究科 臨床心理学専攻）

- ビジョン

現代は、多くの人たちが高度に発達した科学技術文明の恩恵を享受する一方で、人の精神的営為との齟齬が表面化することによる社会不安が増幅している時代でもある。山梨英和大学では、こうした認識に基づき「人間の心理」を学問的に探求するのみではなくきわめて具体的に「心に悩みをかかえている人」への支援を実践する人材を養成すべく、大学院に臨床心理学専攻を設けた。大学院に臨床心理学専攻を有する大学は、山梨県内においては本学のみである。心のケアが今後ますます必要とされる時代にあって、本専攻の存在意義や社会からの要請はさらに大きくなっている。本専攻が、大学院人間文化研究科の専攻として位置づけられていることは、臨床心理学という研究分野が「人間文化」とは決して切り離すことができないことを意味している。人間文化についての深い理解なくして人間の心を深く理解することはできない。

- 「卒業に関する方針」(ディプロマポリシー)

山梨英和大学大学院人間文化研究科（臨床心理学専攻）は、臨床心理の専門家を養成

することを第一義とするカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格することにより、次に示す能力や資質などを備えた学生に対して修士課程修了を認定し学位を授与する。

1. 本大学院修了後にも学ぶべき課題を持ち、学び続ける自発的な向学の姿勢を有する。
2. 個人にも集団にも目を向ける対人姿勢を備え、人間に対する尊敬の念、謙虚さと誠実さをもって人を活かしつつ関わるという対人援助を自らの役割として心得ている。
3. 医療、教育、産業、福祉、司法など、どのような臨床領域においても適切な援助や介入のあり方を判断し、地域の専門機関と連携をしながら、実行する実践力を有する。
4. 心理学の方法や観点に基づいて職場内の課題を調査研究し、解決への提言を出すことができるような知識と方法を有する。
5. 学校や地域や企業などにおいて、予防のために心の健康の重要性を教育する力を有する。
6. 臨床家としてのあり方の背景にキリスト教精神に基づく死生観を持ち、特に「緩和ケア」、「高齢者援助」などの死に直面する課題に対する臨臨床的関わりの中にそれを活かすことができる。

● 「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラムポリシー）

山梨英和大学大学院人間文化研究科（臨床心理学専攻）は、教育目的を達成するために、大学院設置基準、日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士第1種指定大学院」としての指定条件並びに公認心理師法に基づく公認心理師法施行規則第2条に定める科目条件を満たすとともに、学部における学びとの連続性を図るよう教育課程を編成している。

1. 開講科目は、主要な知識を技法論と共に学ぶ「基幹科目」、専ら臨床実践に習熟するための「臨床科目」、調査・研究のための手法を学ぶ「研究科目」の3つの科目群により編成する。
2. 臨床心理学は実践の学であることから、多くの理論的科目においても実践的技法と関連づけて学ぶことができる授業を実施する。
3. 学生が実社会と接して問題を発見し、文献や資料を検索して調査・検討したものを報告し、教員と討議できるよう、主体的に参加する授業を実施する。
4. 多面的に展開して領域全体を広く展望できる授業と人の心を深く探求することで個人の特殊性の理解を目指す授業とを実施する。
5. 実践家としてのみならず、研究者として実社会において活躍できるよう、課題の発見や研究の遂行を可能とする研究法に関する知識を提供する。

6. キリスト教信仰に基づく隣人愛や人間存在を尊重する倫理観が、臨床家としてのあり方に反映することを目指した授業を実施する。

- 「入学者の受入に関する方針」(アドミッションポリシー)

山梨英和大学大学院人間文化研究科(臨床心理学専攻)は、キリスト教精神による人間形成、社会への奉仕という建学の理念に基づき、臨床心理学的支援を実践できる高度な専門的職業人の養成を教育目的とする。この理念・目的に共感する、次のような人々を国内外から広く受け入れる。

1. 人間の心の問題の研究を通して、真に役立つ「心のケア」のあり方を探求するとともに、自己研鑽を深めつつ他者の心を支えようとする姿勢を持ちたい人
2. 本大学院が提供するカリキュラムにより身につけた知識、技法、対人・対社会態度、共感的理解力を活かして、臨床心理士または公認心理師の資格を取得し、専門的職業人として社会に貢献したい人
3. 本大学院が提供するカリキュラムによる自己研鑽を通して、臨床心理の専門家に期待される業務のみならず、自発的に課題に取り組み、研究し、提言することができる社会的スキルを備えたい人
4. キリスト教精神に根ざした考え方を基盤として建学の理念を具現化するため、「精神的に他者と共に在る隣人愛」を実践したい人

III. 長期ビジョンと、長期ビジョン達成のための2025年度事業計画

長期ビジョンまとめ

- **【統合ビジョン】**
人間文化学を起点に、個人と社会のウェルビーイング実現の担い手を輩出する。
- **【教育ビジョン】**
多様な学生の成長を支え、学生とともに人間文化学を探究する場を実現する。
- **【研究ビジョン】**
専門分野の追究と学際的研究の推進により、社会課題の解決に資する新しい知を創出する。
- **【社会連携ビジョン】**
学内外の資源を積極的に活用し地域に貢献する。
- **【経営ポリシー】**
対話と協働を通じて、変化に前向きな大学を実現する。

各ビジョン達成のための事業計画

統合ビジョン

人間文化学を起点に、個人と社会のウェルビーイング実現の担い手を輩出する。

(統合ビジョン達成のための事業計画)

● 内部質保証システムの構築

1. ウェルビーイングの掘り下げと、教育・研究・社会連携ビジョンへの展開

目的 キーメッセージであるウェルビーイングについて定義を明確にする。

概要

- ① 山梨英和大学のウェルビーイングの定義策定
- ② SDGs や PERMA など、既存概念との融合を図る。

(事業計画)

2024 年度中に原案を作り、2025 年度の広報媒体より明確に提示を行う。

2. 3 ポリシーの一体的な見直しと、教学マネジメントの確立

目的 3 ポリシーを一体的に見直し、3 ポリシーに基づく全学的な教学マネジメントを確立し、山梨英和大学で学ぶ価値をわかりやすく表現し提示する。

概要

- ① DP：大学の理念や社会の要請等を踏まえ、学生が身に付けるべき資質・能力を明確化し、目指すべき学修成果目標と学位を授与する基準をわかりやすく提示する。
- ② CP：DP を実現するための教育課程編成・実施方針、学修成果の評価の方針を提示する。
- ③ AP：DP、CP の目標・内容を踏まえ、学生受け入れの方針として提示し、入学者選抜と接続する。
- ④ 3 ポリシーの連環と改善を適切に進行し、教学マネジメントを確立する。

(事業計画)

2024 年度中に原案を作り、2025 年度の広報媒体より明確に提示を行う。

3. カレッジ・レディネスの提示

目的 入学希望者はどのような準備をすればいいか、わかりやすく提示する。

概要

育成する人材像や教育方針をわかりやすく提示し、入学者選抜に反映させる。

(事業計画)

2025 年度中に原案を作り、2026 年度の広報媒体より明確に提示を行う。

4. 各方針の見直し

目的 各ビジョン、および見直したポリシー等に則した各方針を提示する。

概要

- ① 既存の各方針の見直しを行う。
- ② 方針の追加や削除、統廃合も同時に見直す。

(事業計画)

2025 年度中に原案を作り、2026 年度の広報媒体より明確に提示を行う。

教育ビジョン

多様な学生の成長を支え、学生とともに人間文化学を探究する場を実現する。

教育ビジョン達成のための事業計画

1. 学問領域の強化・再編

目的 教育の質を向上させ、可視化を通して志願学生の多様化と志願者増につなげる。

概要

- ① 新たに社会系の学問領域を追加する。
- ② 既存三領域の強化分野の確認（例えば英語教育のさらなる強化、言語教育などアジアへの注力、データサイエンスの強化など）

(事業計画)

2025 年度中に制度設計。2026 年度より実施、及び周知。

2. 専門プログラムの充実、キャリア支援プログラム

目的 資格につながるプログラムを充実させ、就学者のニーズに応える。

概要

- ① データサイエンスプログラムに数理・データサイエンス・A I 教育プログラム（応用基礎レベル）を導入
- ② 日本語教師資格（国家資格化）
- ③ 司書課程プログラム

- ④ 山梨地域コーディネータープログラム
- ⑤ 公認心理師プログラム
- ⑥ 英語強化プログラム
- ⑦ 韓国語教育・交流プログラム
- ⑧ 国際交流プログラム
- ⑨ 教職課程の設置検討
- ⑩ その他社会福祉士、認定心理士など取得可能資格の訴求
- ⑪ インターンシップなどその他の施策の専門プログラム化の検討
- ⑫ 高大連携7年間の教育プログラムの検討・構築

(事業計画)

2025 年度中に制度設計。2026 年度より実施、及び周知

3. 学生支援体制の充実

目的 多様な学生の成長を支える教育システムの構築

概要

- ① リメディアル教育の推進、学修サポートデスクの充実
- ② 山梨英和大学インクルーシブ教育システムの構築

(事業計画)

2025 年度中に制度設計。2026 年度より実施、及び周知

4. 進路・キャリア形成支援の強化

目的 多様な進路先、キャリア形成の支援

概要

- ① キャリア形成支援の更なる充実
- ② 3 省合意インターンシップの推進
- ③ 「大学院進学という選択」の提示（他大学大学院進学サポート）
- ④ 留学生国内就職支援

(事業計画)

2025 年度中に制度設計。2026 年度より実施、及び周知

5. 国際交流

目的 真に国際的な大学を目指すための仕組みづくり

概要

- ① 国際交流推進組織の設置
- ② 英語によるアドミッション
- ③ 外国人教職員雇用の検討
- ④ 協定校との関係性を見直し、交換留学を拡大
- ⑤ 国際交流に関するインセンティブ的な奨学金の検討
- ⑥ 授業単位での国際交流の拡大
- ⑦ 受入学生の寄宿舎の問題を検討

(事業計画)

国際担当職員 1 名を 2025 年に雇用。

英語によるアドミッションは国際担当職員が担うのと共に、web 等の情報については AI による自動翻訳システムを導入し、多言語化を行う。

協定校については引き続き見直しを行い、必要に応じ追加を行う。

インセンティブ的な奨学金については留学生受入・派遣問わず検討し、2025 年中に制度化を目指す。

寄宿舎については現状の把握を正確に行い、想定受入数を念頭に入れて民間業者への委託を 2025 年中に制度化する。

6. 留学生支援の充実

目的 日本語+日本の大学で学ぶ魅力に加えて、卒業後の就職・進学、生活まで見据えたサポート体制を構築する。

概要

- ① 留学生獲得目標（人数・地域）の設定
- ② 入試制度・時期の見直し
- ③ 日本国籍でない人向けの入試、実施検討
- ④ 入学時期の見直し
- ⑤ 留学生向けカリキュラムの作成可否
- ⑥ 日本語学習のシステム
- ⑦ 日本語能力のエビデンス（日本語能力試験 JLPT）受験・取得支援
- ⑧ 日本文化体験支援
- ⑨ 就職支援
- ⑩ 留学生大学院進学サポートプログラム
- ⑪ 日本語学校・大学・企業で連携した、就職までの一貫したシステムの構築
- ⑫ 生活支援

(事業計画)

獲得目標は31名とし、注力してこなかったベトナム（東南アジア）、ネパール及びバングラディッシュ（南アジア）の3国を重点国とする。これにインドネシアも加わる可能性がある。また従前の東アジア（中国・韓国）は引き続き注力するが、これに台湾も加えたい。

入試制度・時期については、各国の学制及び他校の同校も踏まえ、早期かつ回数を増やした入試制度を構築し、さらに自国からのオンライン受験も可能としたい。

JLPT 取得支援としては、従前の進路部での受験費補助に加え、インセンティブ的な補助と併せ進めたい。

7. リテラシー教育

目的 在校生の基礎的な学びの力を底上げする。

概要

- ① クリティカル・リーディング
- ② 体験学習
- ③ 図書館活用

（事業計画）

2025 年度検討。

8. 地方で求められるパートタイム就学ニーズへの対応

目的 社会人を意識した資格取得プログラムの構築

概要

- ① リカレント教育
- ② 資格取得のための科目等履修制度
- ③ リスキリング教育
- ④ マイクロクレデンシャル（デジタル証明）パス導入

（事業計画）

2025 年度検討。

9. 通信制課程設置の検討

目的 山梨英和大学の教育を広げていくため、地域・18歳人口に左右されない学生確保施策として設置検討する。

（事業計画）

2025 年度検討（実施の是非含む）

研究ビジョン

専門分野の追究と学際的研究の推進により、社会課題の解決に資する新しい知を創出する。

研究ビジョン達成のための事業計画

1. 人間文化学研究センターの新設検討

目的 人間文化学を探究し、新たな価値を創出するための、物理的な場を設置する。

概要

- ① 新設の可否検討
- ② 内容、および運営方法の検討
- ③ 余剰教室等の活用も視野
- ④ 学部・研究科との関係性の明確化

(事業計画)

2025 年度 設置の是非を含む検討と試行。

2. 人間文化学を探究するための共同研究の推進

目的 人間文化学をより探究するための共同研究の推進

概要

- 1. 奨励金の設置
- 2. 助成制度のシステム化

(事業計画)

2025 年度 設置の是非を含む検討と試行。

3. 研究成果発表手段の新設

目的 人間文化学の研究成果を広く広報する。

概要

- ① Web 掲載枠の新設
- ② 論集等の新設（もしくは統合）

(事業計画)

2025 年度 設置の是非を含む検討と試行。

社会連携ビジョン

学内外の資源を積極的に活用し地域に貢献する。

社会連携ビジョン達成のための事業計画

1. 山梨英和大学地域連携プラットフォームの構築

目的 大学として、地域社会・産業界のニーズに応える課題解決プログラムを提供する。

概要

- ① 独自の地域連携プラットフォーム概念の検討
- ② メイプルカレッジ講座の展開と周知
- ③ 自治体との連携企画
- ④ 起業支援
- ⑤ 教職員の地域貢献事業の集約化と周知

(事業計画)

2025 年度 設置の是非を含む検討と試行。

2. アルumni (卒業生)、同窓会との連携

目的 ネットワークの価値を再認識し、地域ニーズに応えるプログラム、学生の体験学習やインターンシップ、起業家支援を提供する。

概要

- ① アルumni・データベースの制作
- ② アルumni、同窓会向けの広報展開
- ③ 地域・同窓会と連携したインターンシップ等の展開

(事業計画)

2025 年度 設置の是非を含む検討と試行。

3. ボランティア活動の推進と訴求

目的 キリスト教精神に根ざした深い人間理解のもとに、世界の平和と安定のために活躍する人材を輩出するため

概要

- ① 法人・中高・こども園との連携
- ② 学生ボランティア団体の支援
- ③ ボランティア活動の周知と広報
- ④ 点火祭などの地域への周知

(事業計画)

2025 年度 設置の是非を含む検討と試行。

経営ポリシー

対話と協働を通じて、変化に前向きな大学を実現する。

経営ポリシー達成のための事業計画

1. リブランディングの検討と実施

目的 選ばれ続ける大学であるため

概要

- ① 山梨英和大学の価値、山梨英和大学で学ぶ価値を、就学者視点で再定義する。
- ② 明文化し、キーメッセージを作成する。
- ③ マーケティング、プロモーション活動を通じて周知する。

(事業計画)

2025 年度 広報媒体により周知・実施。

2. 柔軟な制度設計思想の導入

目的 時代の変化に対応するため

概要

- ① 前提として外的環境の変化（18 歳人口減、大学数増加など）を十分に理解する。
- ② 全ての事案において、従前の国内・地域、18 歳、対面に拘らない柔軟な制度設計を目指す。

(事業計画)

2025 年度 検討、計画書作成。

4. 適切なマーケティング戦略の実施

目的 正しく伝え続けるため

概要

「伝えるべき価値」を適切な「ターゲット」に、適切な「タイミング」で広報する。

(事業計画)

2025 年度 各媒体に反映。

5. 経営戦略推進体制の構築

目的 持続可能な組織であるため

概要

- ① 適切な財政管理
- ② 収支バランス改善のための前向きな施策の検討と実施
- ③ 適切な人事計画の管理と遂行
- ④ 過不足ない教育的投資の実施
- ⑤ 計画的な設備投資・環境整備の実施
- ⑥ 財政確保施策の検討

(事業計画)

2025 年度 計画書作成、一部専攻実施。

6. 教学組織の見直し

目的 新たな力を生み出すため

概要

- ① 部署ごと、個人ごとの業務精査の実施
- ② 役職、会議体、組織構成の見直しと実施

(事業計画)

2025 年度 計画書作成、一部専攻実施。

Ⅱ 中学校・高等学校

① はじめに

2024年度から始まった山梨英和学院の新中長期経営計画に沿って改革を継続する。少子化が加速し、中等教育も大きな転換期にある中、「一人ひとりの賜物を見いだし」個々のニーズに合った教育の場を提供するために、「山梨英和高等学校全日制課程」と「通信制課程グレイスコース」の連携を図り、すべての生徒が居場所を見つけ、受容されるインクルーシブな教育環境を実現する。そのために、2025年度から中高をあげて、カリキュラムの改変、授業改善などの教育改革、および教育施設・設備など学習環境の整備を中長期計画に沿って実施していく。神様が私たち一人ひとりを愛してくださるように、他者を尊重し共存できる社会を作りだす生徒を育てる。そして、山梨英和の根幹であるキリスト教信仰を土台として、全ての教育が本校の校訓である「敬神・愛人・自修」につながるよう、信仰を持って祈りつつ歩む。

② 基本方針

- 教育理念：「敬神・愛人・自修」
- 使命：「他者のために、他者とともに」生きる女性を育てる
- ビジョン：キリスト教信仰に基づき、世界に貢献できる自立した女性を育てる
- 基本となる価値観：人間形成の確立・国際的な視野・社会貢献
- 行動指針：生徒自身が考え、行動する力を育てる

教師自らが研鑽を重ね、質の高い教育を行う

<Yamanashi Eiwa Way より>

2025年度の目標：「一人ひとりの賜物を見いだし、伸ばす教育の実践 IV」

「敬神」 「礼拝を大切にする」

神と向き合う・自分と向き合う・他者と向き合う
学校行事や生徒会活動を通して、

「愛人」 「相手を尊重する」

様々な他者と真の人間関係を育む
コミュニケーション力・ディベート力を身につける
夢の実現に向けて努力する

「自修」 「高い志を持って研鑽する」

社会に還元できるように、自分の能力を高める
あきらめない強い精神力を育む

③ 主な教育の概要

- 卒業の認定に関する方針

本校は建学の精神をキリスト教信仰に置く。また、本校の教育理念は、神を賛美し神の前に謙虚に立って、神と人ともに奉仕する人格を育成し、真理を学び、深き知性と品位を持つ子女を育成することである。

本校で学び、各教科における知識を取得し、所定の単位を修めるとともに、次に示す本校の学校生活での一般目標を備えた生徒に対して卒業を認定する。

1. 真理を求めるひたむきな勉学と純真さとにあることを自覚できる。
2. イエス・キリストにおいて啓示された神との正しい関係を求めて、常に自覚的に生きることができる。
3. 一人ひとりかけがえのない存在であることを十分に知り、個性の確立に努めることができる。
4. 身体を強健にし、正しい判断力を身につけ、主体的に実践することができる。
5. 隣人との正しい関係をつくり、より良い学校社会を築きあげていくことができる。
6. 神と人ともに奉仕して、良い社会の形成者へと成長することができる。

- 教育課程の構成及び実施に関する方針

1. 愛と奉仕の精神を理念とする宗教教育

始業前、毎朝行われる礼拝では神をあがめ、隣人を思い、自分自身の命と存在の意味を考える。聖書の授業のほか、修養会、クリスマス礼拝などの行事を通しての宗教活動は本校教育の根底にあるプロテスタントのキリスト教信仰に基づくものである。

2. 中・高6ヶ年教育

戦後の新制学校制度以来、中学・高校6ヶ年教育を実施してきた。その教育課程に流れるものは、中学校では基礎学力の充実と種々の体験学習に基づく進路指導にある。高校では、各人の個性と希望する進路実現に向けて選択授業による充実した学習を展開し、実力の養成に努める。

3. 国際的視野を広め、国際交流を通して培う人格教育

創立以来のカナダ人女性宣教師による厳格な人間教育と生きた英語教育の精神を継承し、国際的視野を広めることに努めています。海外にある3つの姉妹校は、いずれもキリスト教主義の女子校で、これまで3校とも活発な交流を行ってきた。コロナ禍の中、交流の実現は不透明であるが、これまで梨花女子高校（韓国）との長期交換留学制度や Mentone Girls' Grammar School（オーストラリア）とのターム留学制度を活用し多くの生徒たちが国際的視野を広めた。また A.B.von Stettensches Institut（ドイツ）には環境学習研修として訪問し、研究発表の交流を行ってきた。さらに、国際貢献を目的とする SDG s 研修も充実しており、海外での豊かな体験により人格教育を実践するプログラムを提

供していく。

- 入学者の受け入れに関する方針

本校は、1889年に創立した山梨県下唯一のキリスト教主義の女子校で、幅広い分野で活躍する卒業生を輩出してきた。校訓である「敬神」「愛人」「自修」のもと、キリスト教信仰に基づく人間教育を揺るぎない教育を理念とし、創立以来グローバルスタンダードな女子教育を実践していく。

国際的な視野に立ち社会に貢献できる自立した女性の育成を教育目標としており、以下の生徒を募集する。

- (ア) 本校志望の意思が強く、入学後は自らの進路実現に向けて、高い目標を持ち、学業に真摯に取り組む生徒
- (イ) 規則正しい生活ができ、学習を中心として、学校行事、地域と交流、部活動、学校外での活動（各種コンクールや大会、ボランティア活動等）にも積極的に参加し、常に自分を高めようとする生徒
- (ウ) 英語によるコミュニケーション能力の向上や資格取得に努め、国際交流等に意欲的に取り組む生徒。物事を科学的に捉え、論理的に考え、主体的に探求活動を行う生徒
- (エ) 互いの違いを認め合い、豊かな人間関係が構築できる力を持つ生徒

④ 事業計画

長期ビジョンを策定し、これに基づいた中期計画（アクションプラン）の一環として、以下のとおり2025年度の実施を行う。

1. 長期ビジョン：

「敬神・愛人・自修」のスクールモットーの下、統合ビジョン・アドミッションビジョン・カリキュラムビジョン・グラデュエーションビジョン・組織ビジョンを以下のとおり策定した。

① 統合ビジョン：

「敬神・愛人・自修」を基盤に時代を捉えた教育の実践を通し、よりよい社会の実現に貢献し続けます。

② アドミッションビジョン：

スクールモットーへの共感と土台となる学力を有し、多様な他者と協働しながら地球市民として活躍を願う生徒を歓迎します。

③ カリキュラムビジョン：

時代を捉え、「敬神・愛人・自修」に基づく教育を追求します。

- ① キリスト教教育を基盤とした人格形成を促す体験
- ② 実践的な英語教育をはじめとした地球市民としての意識を培うダイバーシテ

ICT教育

- ③ 最先端のICTを活用した生徒一人一人の学力の向上や興味関心を引き出すプログラム

- ④ 学内外の多様な他者との出会いや協働を通じた探究活動

- ④ グラデュエーションビジョン：

キリスト教精神と確かな学力を基盤に、これからの時代に必要なデジタルスキル・地球市民としての意識・探求する心を備えたより良い社会の担い手として、自らあゆむ生徒を育てます。

- ⑤ 組織ビジョン：

私たちは対話とエビデンスに基づき、教育理念の実現と教育の質向上を追求する組織として躍動し続けます。

2. 中期計画（アクションプラン）

ー 教育・研究関係

◇ 重点事業

山梨英和の建学の精神に揺るぎなく立ち、キリスト教信仰に基づく本校の校訓である「敬神・愛人・自修」が、常に本校の中心にあることを全教職員が確認する。日々の礼拝を大切にし、他者を思いやり、神様の言葉に謙虚に耳を傾ける生活をおくるよう心掛ける。校長が代わり、新体制で更なる前進を遂げ「生徒募集」に繋がる魅力ある教育を展開するよう努める。

- ・ 「神を敬う」

本校の根幹にあるキリスト教信仰に基づく教育を実践する。そのためには毎日の礼拝を大切にする。コロナ禍以降、賛美の声が小さくなったように感じるが、高らかに神を賛美する礼拝を守れるよう祈り求める。「敬神」

- ・ 「相手を尊重する」

生徒・保護者・教職員間で互いに尊重し全員で支えあう組織を目指す。困難な状況にある時こそ、小さいもの・弱いものに目を向け寄り添う。「愛人」

- ・ 「高い志をもって研鑽を積む」

教育界がこれまでにない大きな変革を求められている今、新たな教育の方向を探るために柔軟な対応が求められている。自己研鑽が欠かせない。校内教育研究会の内容を精査し、個々の生徒に対応可能な教育の実践を目指す。「自修」

最重要課題は以下の3点である。

- ① 「生徒確保」

少子化が加速し、県内のみの生徒確保は非常に厳しい状況にある。入試広報部の全日制と通信制グレイスコースを一元化し強化を図る。県内全域を丁寧に訪問し、全日制と通信制グレイスコースの両方の地元の認知度をさらに高めるよう努める。

また、近隣の県外（長野・東京・静岡）からの生徒はもとより、留学生に対応できるカリキュラム及びスタッフを充実させ、積極的に海外からの私費留学生や帰国子女を受け入れる。中学募集においては、前年度を一人でも上回るようさまざまな方法で入試行事を魅力あるものにする。高校募集においては、本校の強みであるキリスト教教育、女子教育、英語教育、ICT 教育、探究などの特色をわかりやすく発信し、全日制はもとより、通信制グレイスコースにおいても個々のニーズに応じた学びができることを PR する。教員の広報業務は、本務である教育に支障のない範囲に留めるようにし、広報業務にあたるスタッフの配置を図る。

② 「教育改革の実施」

我が国の公教育は岐路に立たされている。不登校が増加する現状は、その象徴と言える。不登校の問題は、現代の公教育全体が抱える構造的な問題と深く結びついている。教師がすべての生徒に対して同じ内容を教示し、生徒はそれを覚えるという受容学習を土台とした画一的な教育システムがその一因と言われて久しい。生徒にとっては、正解への解法を身につけることが学習となり、知識偏重に傾いているのが我が国の教育の現状であり、結果「偏差値教育」と批判されるテスト重視の教育に陥った状態が続き、世界の中で「ガラパゴス化」している。このような現状に対して、近年、思考力や動機づけ、自己効力感などの「非認知認知能力」が注目されている。世界的にも、OECD が提唱する教育のコンセプト「ラーニング・コンパス 2030」において、「自ら考え、主体的に行動する資質・能力」を意味する「エージェンシー」がその中心的概念として位置づけられている。現行の学習指導要領でも、教育の目標とされる 3 つの柱の一つに「学びに向かう力、人間性等」が挙げられている。このような教育観では、従来の知識重視の教育とは異なり、急速に変化する社会や技術の進歩に対応できるような柔軟な思考や問題解決能力が重視される。具体的には、以下のような能力やスキルが重要視されている。

1. クリティカルシンキング（批判的思考）：物事を多角的に分析し、論理的に考える力

2. クリエイティビティ（創造性）：新しいアイデアや解決策を考え出す力

3. コラボレーション（協働）：他者と協力しながら問題を解決する能力

4. コミュニケーション能力：自分の考えを明確に伝え、相手の意見を理解する力

このような問題意識に基づき、カリキュラム改革として、中学・高校 6 年間の一貫教育のもと、言語力を中心とした論理思考力・論理的表現力を伸ばし、上述の能力・スキル、また認知的エンゲージメント（学びへの取り組み姿勢）を高めるためのプログラムを策定し、2025 年度から実施していく。2025 年度は移行期と位置づけ、探究の時間を中心に実施する。

本校は、従来の知識偏重教育からの転換を目指して、生徒の言語力・論理思考力・論理的表現力の向上を目標とするものである。また、学びへの主体的な関わり、共感

力、思いやり、コラボレーションなどの社会性を促進することも目標とする。これらの目標を実現するため、上述の改革プログラムの開発と実践を行い、「グローバル・リベラルアーツ」教育として確立していく。

③ 「通信制グレイスコースの充実・拡張」

2023年4月にスタートさせた通信制グレイスコースは、在籍生徒数が50余名に達し、成長を続けている。該当区域を山梨県、長野県、静岡県、東京都、神奈川県、5県としていたが、2024年度からは、さらに茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、愛知県、海外（米国、カナダ、ドイツ、エストニア、ポーランド、中国、香港、韓国、台湾、タイ、フィリピン、シンガポール、ベトナム、インドネシア、インド、オーストラリア、ニュージーランド）を加え地域を拡張した。また、山梨予備校、KAI 高等学院と提携し、有料となるが希望者には個々のニーズに応じたレベルの学習サポートを提供する。姉妹校の東洋英和女学院高等部からの転入も複数あり、東洋英和の教室（大学院棟内）をサテライト教室として提供頂き、スクーリングを行えるようになった。今後、本校2号館の学習設備等の改善を含め学習環境を向上し、さらなる教育の充実を図っていく。

① 人事

2025年度は、就任2年目を迎えた校長のガバナンスの下、新中長期経営計画に沿って改革を進めていく。

2025年度には新規に期間採用教員として、保健体育科1名を採用する。採用した教員については、校内での初任者研修等をとおり、本校の教育理念の理解をはかるとともに、校内教研等の研修を促進し、教科指導のプロとして研鑽を積む機会を設ける。

2025年度末に定年を迎える教頭及び通信制課程部長の後任については、本校の教育理念に沿った教育を実践できるような体制づくりに向けて、人事配置計画の検討を継続する。

事務職員については、私傷病休職の代替及び国際関係の強化として、2024年度に嘱託1名（司書・国際）を採用した。2025年度については、山梨英和学院全体の事務組織の中で適する人事異動を検討する。

⑤ 生徒募集関係

[当該年度（翌年度募集）の計画]

中学入学生70名、高校入学生120名の確保を目標とし、達成するために次の方策を実施する。

- ① 積極的な広報を展開するために、昨年度のデータを慎重に分析し、次年度の年間活動計画を策定していく。特に2024年度に始めた小学生対象部活動体験は好評であったため、継続していきたい。これに基づき学校、塾の地域別担当を決め、

教職員全身体制できめ細かな募集活動を展開する。

② 中学入試改革

2013年度入試から山梨県内では初めて導入された中学専願入試の「英語（選択）」は、十分に周知され受験生を集めている。この間、小学校での外国語活動も取り入れられ英語を巡る教育の重要性も高まっている。今後も「英語の山梨英和」を内外に示していくために、英語を得意とする受験者層の拡大を目指したい。また、中学スカラシップ入試を県内で初めて導入し、学力のある受験者層の拡大を目指してきた。2023年度入試からは、この目的に沿うように、専願入試の判定とスカラシップ選考を「国語・算数」の2科目型と「国語・算数・英語」の3科目型でも行えるように工夫した。その結果、英語選択者の割合が増加した。次年度募集にも活かしていきたい。

③ 海外・帰国生、私費留学生の受け入れ強化

少子化の中、生徒数を確保するため、「海外・帰国生入試」の受け入れの強化を図った。私費留学生の受け入れは中国におけるエージェントを通して軌道に乗ってきている。今後は、広く海外・帰国生や留学生を受け入れるため、英語版の学校案内やSNSによる情報発信など海外への情報発信に力を入れる。

④ グリンバンク杯（英語スピーチコンテスト）改革

2021年度「グリンバンク杯（英語スピーチコンテスト）」が改革され、小学生向けの部門も開催された。中学生部門はもとより、小学生部門の参加者が増えていくようにコンクール実行委員会と連携する。

⑤ 高校入試改革

2013年度入試より、これまで実施していた校長推薦の特待生に加え、一般入試にスカラシップ入試を導入し、その機会を高入生だけでなく内部進学生にも平等に与え、成績上位層へのアピールをはかった。受験生のモチベーションの向上のため2022年度からは更に認知度をあげ、生徒増を目指した。推薦入試での受験生の増加を図り推薦特待生の周知を進めるため、特待生選考を受験生が出願の際に申請できるように変更した。2017年度入試から設けられた「S種特待生（原則3年間）」の認知度を高め成績優秀な受験生にアピールする。

⑥ Web 出願の導入

2023年度入試から、県内の私立中学・高校がそろって Web 出願に切り替えており、本校でも中学・高校ともに Web 出願を導入し、受験生の行事への申し込みや出願の利便性の向上と効率化を図った Web 登録等は十分にされてきているため、今後の活用を図っていきたい。

⑦ 入学金の優遇

2017年度入試から「同窓生の子・孫・妹への入学金の半額免除」と「在校生の姉妹・姉妹（双子）同時入学者への入学金の半額免除」が実施され、受験への

動機づけとなっている。小学校訪問、中学校訪問を精力的に行い、指導に当たる先生方との関係を構築し、本校への理解を求め、協力を依頼する。長野県にも積極的に広報していく。

- ⑧ 塾・予備校、ピアノ・バレエ教室などとの関係を深めるため資料の送付やP R活動を行い、受験生の県内情勢の把握・分析に努める。
- ⑨ 生徒、保護者、P T A 本会役員O B、同窓会役員・役員O G、教会に連携・協力を要請する。P T A、同窓会の協力により導入した「小・中学生紹介カード」を、P T A 総会や同窓会総会に合わせ協力依頼した。教会へも積極的に協力を依頼する。
- ⑩ 小学生対象の英語講座を通して本校の教育の特色や魅力をアピールする。本校の教育を地域に還元していく狙いも強め「U-21 チャレンジ講座など、甲府市教育委員会や山梨県生涯学習推進センターとの連携を図り、内容も充実させ、魅力的な山梨英和の生徒の姿をP Rする。
- ⑪ 中学オープンスクールや高校オープンキャンパスのプログラムに工夫を持たせ、特に生徒を全面に出した催しとして「英和生の素顔」をアピールしたい。また、県内唯一の女子校として他校との差別化を図り、「女子教育の強み」を発信していく。さらに、「英語の英和」とも言われる英語指導の内容を強くアピールしていきたい。
- ⑫ ホームページを内容面・ビジュアル面ともに中学・高校への受験希望者に対して魅力あるものにし、積極的に学校の情報を発信していく。2021年度開設したFacebook や Instagram だけではなく2024年度に開設した LINE などS N S の広報活動への積極的な活用を推進する。動画による受験生や保護者に対する訴求力の高さを鑑みて、今後ともH P やS N S に限らず、説明会などでも動画を活用していく。
- ⑬ 山梨英和中学から山梨英和高校へつなげる進路指導の展開を強化し、本校の中学生に対し、山梨英和高校の魅力を十分に伝える方法を工夫する。
- ⑭ 上記方策の実施状況及び告知・P R（学校案内、新聞広告、ホームページ、ポスター・チラシなど）方法等を検証し、より有効な方策となるよう適宜改善する。

⑥ 施設・設備関係

[当該年度の計画（充実整備・修繕整備計画等）]

中長期計画に基づく教育改革の中心となる主体的・探究的学習を実現するために、既存の施設の改修を行い、学習環境の整備を行う。

Ⅲ 認定こども園

1 はじめに

2015 年 4 月より幼稚園からこども園に移行し、山梨英和学院の三つの幼保連携型認定こども園は 0 歳の乳児から就学前の年長児までの幅広いこどもたちを受け入れて、キリスト教精神に基づく保育・教育を行っている。

三園が置かれている状況は、社会の少子化が進む中、教育標準時間認定(1 号認定こども)が減少する一方で、保育ニーズの高まりが保育標準時間認定、保育短時間認定(2 号認定こども、3 号認定こども)の増加という現状である。

キリスト教保育・教育の維持、運営にあたっては、保護者に信頼され、選ばれる園でなければならない。そのためには、高い水準の教育保育の提供、高いスキルと教育理念を有する保育教諭の育成、施設設備の充実が早急に求められている。さいわい、2024 年 10 月に甲府、韮崎の新園舎を設立し、石和と併せて 3 園の教育環境は大幅に整えられた。また、2021 年からは段階的園内研修を充実させることができた。

今後は、国、県、市の子ども子育て行政の考え方、理念等を素早くとらえていく必要がある。今後少子化に伴ってこども園が果たす役割は多岐にわたる。柔軟に積極艇に対応していく必要がある。

2 主な保育・教育の概要

(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針

- ① 子ども一人ひとりの発達段階や家庭環境に配慮し、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った指導、環境構成を行い、就学まで一貫した教育・保育を子ども達に提供する。また子育て支援や障害児教育、地域との交流など、地域には開かれた園として子どもを取り巻く社会への働きかけを積極的に行い、地域福祉に寄与する教育・保育施設をめざす。
- ② 教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画を作成する。
- ③ 指導計画の作成と園児理解に基づいた評価を行う。
- ④ 特別な配慮を必要とする園児への適切な指導及び施設、設備面で、合理的配慮に努める。

(2) 入園児の受け入れに関する方針

各園の認可定員に基づき子ども・子育て支援法第 19 条第 1 項の各号に掲げる就学前の子どもの区分ごとに利用定員をもとに受け入れる。

(3) 誰でも通園制度、預かり保育、子どもの居場所づくり等新たな方向性を見据え、新規事業の検討。

3 事業計画

(1) 重点事業

[当該年度の計画]

- ① 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、就学までの切れ目のない一貫した教育・保育を、遊びを中心としたキリスト教保育として実践、展開する。
- ② こどもたちの発達段階、個性、特性、能力、家庭環境などに配慮、考慮しつつ、こどもも保護者も安心感して過ごせる場となるようにつとめる。
- ③ 園児の健康と安全につとめる。
- ④ 教育・保育、子育てプログラムの充実をはかり、こどもたちの個性をのばし、保護者の子育てを支援する。
- ⑤ 自然に親しみ、他者と交わる機会を提供し、種々の体験や学びを通してこどもたちの豊かな情操、創造力、感受性、知的好奇心、忍耐力、集中力などを養う。
- ⑥ 研修を充実させて保育教諭の資質・技能の向上をはかる。あわせて職員間のコミュニケーションの向上につとめ、同僚性の一層の確保を実現して質の高い保育・教育を提供できるようにする。研修においては特に「気になるこども」(特別な支援が必要なこども)、またその保護者への対応、配慮のスキルアップをめざす。
- ⑦ 保護者や地域の保育ニーズに応える山梨英和らしい事業を実施する。
- ⑧ 保護者や職員が建学の精神の基であるキリスト教の信仰と聖書に親しめる機会を設ける。
- ⑨ 地域の子育て支援の拠点となるよう努め、地域社会に貢献する。
- ⑩ 小学校との接続について一層の強化、連携をはかる。
- ⑪ 地域の高齢者等との交流の機会を大切にする。
- ⑫ 新制度の実施主体である各市町との連携、協力体制の一層の確立に努める。

[今後の（中・長期的な）計画]

- ① 建学の精神を堅持しつつ、子ども・子育てにかかわる動きに適切に対応し、幼保連携型認定こども園としての一層の機能充実をはかり、地域に貢献できる園となる。
 - ② 保育・教育・子育て支援を十分に展開できる規模、体制、施設の構築等の検討を行い、その実現をめざす。
 - ③ 上記の目的を達成するために、「保育・教育・子育て支援」「利用定員・職員配置」「園舎・環境構成」「事務・経理」「その他」の事項に関わる中長期経営計画を立案し、実行をはかる。
- #### (2) 保育・教育関係人事
- ① 適切な職員の配置を行い、保育の質の向上と業務の負担軽減をはかる。
 - ② 処遇改善等にかかわる運営体制の適切な構築をはかる。
 - ③ カリキュラムの創意工夫、深化、展開を意識するとともに、適切な人員の配置、研修、

諸活動を行う。

4 園児募集関係

- ① 園案内、ホームページ、インスタグラム等の広報・メディアを有効に活用する。
- ② こども園として子育て支援拠点事業をはじめ、行政との連携を強化し、地域の子育て事業等に幅広く貢献する。
- ③ 講演会や諸集会等を通して子育てにかかわる人たちが集える場を設ける。
- ④ 在園児、卒園児、未就園児、父母の会等を通じて入園希望者の情報を入手し、募集に生かす。

5 施設、設備関係

- ① 園児の安全確保のために施設、設備、遊具等の点検、補修、改修につとめる。
- ② 教育・保育環境の整備・充実をはかる。
- ③ 地震・災害対策及び防犯対策等について必要な対策を講じる。
- ④ 山梨英和カートメルこども園、山梨英和ダグラスこども園については、2024 年 10 月に新園舎のでの教育保育をスタートした。

IV 学校法人（法人本部）

○ はじめに

法人本部は、学校法人の管理部門として法人全体の総務、経理等の管理業務を適正かつ効率的に遂行し、設置学校3部門のサポートと3部門間の調整にあたる。また、理事会・評議員会の事務局を担うと共に理事長および学院連絡会に対して経営判断に資する適切な情報提供を行う。なお、山梨英和学院全体としての各種事業・行事の事務を担う。

上記の日常業務の外、2025年度は、改正私学法下での新たな寄附行為と新たに制改定された関連規程に基づくガバナンスの強化と効率的・機動的な学院運営を担う新しい経営態勢のスタートをスムーズなものとするために役員を補佐する。また、2年目となる新中長期経営計画「Vision 2023」の各施策を計画どおりに実施する。

□ 基本方針

学校法人の管理部門としての日常業務を適正かつ効率的に遂行し、経常的な事業・行事を実施すると共に、限られた人的・物的資源の下で2025年度においては以下の2課題に対応する。

1. 改正私学法下での新しい経営態勢の確立
2. 新中長期経営計画「Vision 2023」の実施計画の実行

□ 事業計画

1. 改正私学法下での新しい経営態勢の確立

(1) 新しい理事会運営の確立

- ・ 決裁権限の理事長、各理事への移譲
- ・ 理事会の毎月開催と意思決定のスピード化
- ・ 理事会運営の効率化
- ・ 常務理事会廃止と学院連絡会の機能強化

(2) 新しい評議員会運営の確立

- ・ 評議員会運営の効率化

(3) 内部統制システムの整備

- ・ 内部監査部門の設置と内部監査の開始
- ・ 監事、会計監査人、内部監査部門の連携（三様監査）
- ・ 関連規程の制改定による整備

2. 新中長期計画「Vision 2023」の実施計画の実行

(1) 建学理念の浸透

- ・ メッセージ発信の強化
- ・ 教職員修養会の充実
- ・ 学院年度聖句の浸透

(2) ガバナンスの強化

- ・ 役員、評議員の研修実施
- ・ 三様監査体制の確立

(3) リスク管理の強化

- ・ リスク管理規程の制定
- ・ リスク管理委員会の設置
- ・ コンプライアンス規程の制定
- ・ コンプライアンス委員会の設置

(4) 組織力の強化・事務組織強化

- ・ 新しい職員人事制度として目標管理制度の試行

(5) 財務体質の強化

- ・ 資金運用の強化
- ・ 新たな資金運用方法開始
- ・ 寄附金増強対策の検討と開始
- ・ 事務合理化施策の検討

(6) ブランドの維持・向上

- ・ブランド戦略の構築方針の策定 ・創立140周年記念事業の検討開始
- (7) 中計の部門計画の推進支援
- ・部門各施策の実施状況の検証と助言

3. 法人本部が担当する経常的な事業・行事

(1) 定期理事会・評議員会の開催

- ・定期理事会は8月を除いて毎月開催する。
- ・定時評議員会は6月までに開催し、定期評議員会は9月、3月に開催する。
- ・常務理事会を廃止し、学院連絡会(月2回)を理事会準備会の位置付けとする。

(2) 山梨英和学院教職員修養会

- ・2025年5月24日(土) 中高グリーンバンクチャペルにて開催する。

(3) 山梨英和学院教職員クリスマス礼拝

- ・2025年12月6日(土) 大学グリーンバンクホールにて開催する。

(4) 維持協力会活動

- ・役員の企業訪問と山梨英和学院維持協力会報第19号の発行を通じて、寄付金に係る税制上の優遇措置(寄付金控除)の周知と会員の増加を図る。遺贈制度の周知を図る。

(5) 教職員健康診断・ストレスチェックの実施

- ・5月に教職員健康診断、6月にストレスチェックを実施する。

(6) 情報公開

- ・ホームページ上に、「中期的な計画」、「寄附行為」、「役員・評議員名簿」、「役員報酬規程」、「運営機構図」、「事業計画書」、「事業報告書」、「決算書」、「財産目録」、「監査報告書」及び「行動計画」を掲載する。

(7) メイプルニュースの発行

- ・広報誌「メイプルニュース」第66号を8月までに発行する。

(8) 第21回三英和懇談会

- ・旧カナダ・メソジスト教会との関係により設立された姉妹校3校による「三英和(東洋英和女学院・静岡英和女学院・山梨英和学院)懇談会」を山梨英和学院が幹事校となり7月に開催する。

(9) キリスト教教育懇談会

- ・2025年度内に山梨県内諸教会とのキリスト教教育に関する懇談会を開催する。

(10) 職員新年礼拝

- ・2026年1月5日(月)に職員新年礼拝を実施する。

(11) 永年勤続教職員表彰

- ・2026年3月31日(火)に永年勤続教職員を表彰する。